

## 今月の聖句

### 良い地に落ちた種は百倍の実を結んだ

#### マルコによる福音書4章1～9

よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐに芽を出した。しかし日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種は茨の中に落ちた。すると、茨が伸びて塞いだので、実を結ばなかった。また、ほかの種は、良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍になった。」

幼稚園の庭の柿の木にたくさんの実がなっています。赤くなっておいしく食べられそうだなと思うころ、鳥たちが来て啄んでいきます。本当に小さな細い枝ですが、たわわに実る柿の実を見ながら、よくこんな小さな枝にこんなに沢山と思えます。私



たちの予想をはるかに超えています。神のなさることは本当に私たちには理解できないほどに

大きなものであることをつくづく考えさせられます。幼稚園の子どもも私たち大人から見るとずっと小さな存在ですが、神の祝福を受けて私たち以上に大きな実りをしているように思います。隣人を愛すること、被造世界のすべてのものを大切にしようとするのとが小さな心の中に実っていることを感じるのがしばしばあります。

今月の聖句は3つの福音書に共通して出ています。とても大切な教えだったのだということが分かります。2000年前のユダヤの農法では畑を耕して丁寧に種を蒔くということはしなかったと言われていました。自分の所有する土地に全体に種を蒔いてその後で耕して、石ころを取り除いたりして畑にしていくような作業だったようです。非常に非効率なものでした。当時の人にとって見ると今月の話は身近で起こる分かり易い話だったのでしょう。神は自らの声を聴き、神に従い、神の創造の目的に適う日々の生活をしてもらいたいと願っています。創造の目的とは、人間の使命とは何か。すべてのものは神に創造されたもので、どの存在も大切である。それゆえに人は全てのものを大切に、愛おしく思う。そんな世界を完成させることです。神は地球温暖化も、環境汚染の問題も、ま

た人が争い別れ、分裂することを解決することが私たちの使命だと考えています。そんな大きなことを言ってもどうしてできるのでしょうか。自分たち一人ぐらいが躍起になっても徒労に終わるのではないか。そんな思いが沸き上がります。しかしこの世界を見回してください。人間の常識を超えた素晴らしい出来事が沢山起こっています。子どもたちが大きな実りを得ているのも奇跡的なことです。こんな小さな子どもに何が分かるかと思うかもしれませんが、まっすぐな気持ちで神の声を聴き、神の使命を生きようと彼らなりにしています。一人一人が成長していく姿は素晴らしいです。子どもたちは大人よりもずっと素直に真剣に神の言葉を聴く力を持っています。今日のたとえをもう一度振り返りましょう。この譬えは「よく聞きなさい。」という言葉で始まっています。この箇所の内容を見ても、この箇所の原文を見ても、「聞け」という命令の言葉が記された後に、「見よ」「出て行った」「種を蒔く人が」と続いています。この最初の「聞け」という言葉と「見よ」という言葉を合わせて「よく聞きなさい」と訳されたのでしょう。最初に「聞け」と言われてイエスの話しに耳を傾けるよう言われてから、先ず、種を蒔く人が種まきに出て行ったということに注目させようとしています。道端、石地、いばらの中、良い畑。自分の心はどの土地だろうか考える必要はあり

ません。私たちは、自分はどのケースに当てはまるのか、自分の周りのあの人は、どのケースかということをお尋ねしますが、そんなことは無駄です。私たちは「道端」であり「石だらけ」の土地であり、「茨の中」であり、又「良い土地」です。御言葉が蒔かれても、それを聞けない時があり、聞いても根付かない時があります。誘惑に惑わされることがあるのです。そのような中でも、実を結ぶこともあります。大切なのは、自分がどの土地の場合かを判断するのではなくて、神は私たちに、いつも御言葉が蒔かれていることを知ることです。それを聞く耳を持つものとなることです。子どもたちはそんな理屈をこねることなく神の声を聴いています。そんな耳を持っています。子どもたちが成長して大人になっても神のみ言葉を聴くことができる子どもになって欲しいと願っています。

幼稚園では11月11日(月)は収穫感謝と子どもの祝福式を行います。また教会では11月10日に子どもの祝福を行います。個人的に祝福を希望される方は、チャプレンに日程の相談をしてください。

毎週日曜日は7時半と10時半に礼拝を行っています。どなたでも歓迎します。